

英語ディベート同好会

英語ディベート同好会は、英語でのディベート力の向上を目指して、活動しています。〔1年19名、2年9名、3年6名、計34名〕部員は全員初心者から始めていて、日々の練習は、昼休みに行っています。放課後は、週1回程度zoomで他県の強豪校チームと練習会を行っています。練習会では、大学生の方々から指導も受けています。

また、PDA（一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会）主催の研修会、神奈川県大会、全国大会、HPDU（日本高校生パラメンタリーディベート連盟）主催の新緑杯・新芽杯、神奈川県大会、全国大会に出場しています。2019年PDA神奈川県大会・2021年PDA神奈川大会では優勝しています。今年度もPDA神奈川県大会・HPDU県大会優勝を目指して練習をしています。

英語ディベートをやることによって、即興での英語スピーチ能力だけでなく、社会的な問題、例えば国際問題・人権問題・環境問題・教育問題についての理解が深まります。また、他県の高中生との交流、大学生との交流機会も増えます。さらに、英語ディベート同好会では、本校の国際交流イベントの運営、他校の国際交流イベントへの参加も行っています。

<2019PDA 神奈川県大会優勝/タウンニュースに掲載されました。>



<2021PDA 神奈川県大会優勝/タウンニュースに掲載されました。>



真剣勝負の後は楽しく情報交換

英語ディベート部のメンバーたち＝神奈川県立相模原高校提供

英語ディベート部は即興型ディベートを軸に取り組み、所属しているのは1年生が4人、2年生が5人。ほかの部活動との「掛け持ち」もめだち、活動は昼休みが中心です。

45分のうち15分で壁食をとり、残りの30分で1対1のスピーチなどを練習。顧問の萩原一先生は「部員たちはおもしろさから興味を深め、意欲がかかることでさらに真剣になる。ディベートは英語の力を高めるのにもっとも効果的」と話します。

参加できるメンバーで放課後に他校とリモートで練習試合をすることもあるそうです。苦手な英語を克服したいという気持ちで入部した飯野悠翔さん（1年）は「試合中は真剣に戦うが、試合が終われば対戦相手とも楽しく情報交換ができるのいい」。同じ年代で交

流できるのが大きな魅力だと感じています。

こうした対戦から学ぶことも多いようです。藤藤あいらさん（2年）は試合をした学校のスピーチの構成が勉強になりました。ポイントの一つひとつと議論がわかりやすく列挙されていたと、ふり返ります。斎藤さんは「その試合をきっかけに、対戦相手やジャッジに対して、より伝わるように順序立てた論の組み立てを心がけている」。

部長をつとめる 辻崎紗織さん（2年）は意識していることがあります。効果的な反論のしかたで、そのために心がけているのが相手の主張を正しく理解することです。「実現するには基礎や論理的な思考力がもっと必要」。練習に力を入れる日々です。

（山田泉）

<2021 朝日中高生新聞に掲載されました。>

<2021 英語ディベート同好会>



<2022 英語ディベート同好会>



<2019 相模原高校クリスマスパーティー>



<2021 エンパワーメントプログラム>



<2022 ワールドカフェ>

